



Satoshi Hirose, 無題, 2022

みかんの苗木の旅 通信 vol.01

みかんコレクティヴ 20221225

みかんの苗木の旅の始まり

廣瀬智央

みなさん、こんにちは。廣瀬智央です。紀南で開催された「みかんマンダラ展」も無事に終了し、すでに師走となり一年が終わろうとしています。その後、お元気でお過ごしでしょうか？みなさまには、みかんの苗木の里親になっていただき、これからみかんの樹と一緒に育てていくプロジェクトをご一緒に旅することを楽しみしています。ちょうどいま、みかんの季節になりましたね。紀南の畑では、たくさんの実をつけた樹々や山々にみかん色が点在している光景を想像していますが、きっと素晴らしい景観が広がっていることと思います。

みかんの苗木の旅 通信

みかんの苗木の里親になっていただいたみなさんと、コミュニケーションをとるための手段として、緩やかなツール、通称「みかん通信」を立ち上げることになりました。みかんの豆知識、みかんや苗木の育成、農業、参加者の近況や日常なことなど、このみかん通信を通じて、今後も連絡を取り合い、情報を共有をしていく予定です。特に「コモンズの農園」という場所が開かれるまでは、なかなか直接お会いする機会も少なくなるので、このみかん通信がそれに変わるものとなります。創刊号はみかんの苗木の育て方などについて簡単にお知らせし、次号以降は寄稿いただいたコラムやみなさまからの質問事項、近況（私の苗木）など、みかんに関する気になることなど、ご返信いただければこの通信に反映していく予定です。また、みかんコレクティブの農家のメンバーからもより有効な生育アドバイスなどの配信や今後の「コモンズの農園」の展望や準備近況なども順次お知らせしていければと思います。



ミラノ中心部にあるアーケドのクリスマスツリー

写真：Tartaruga

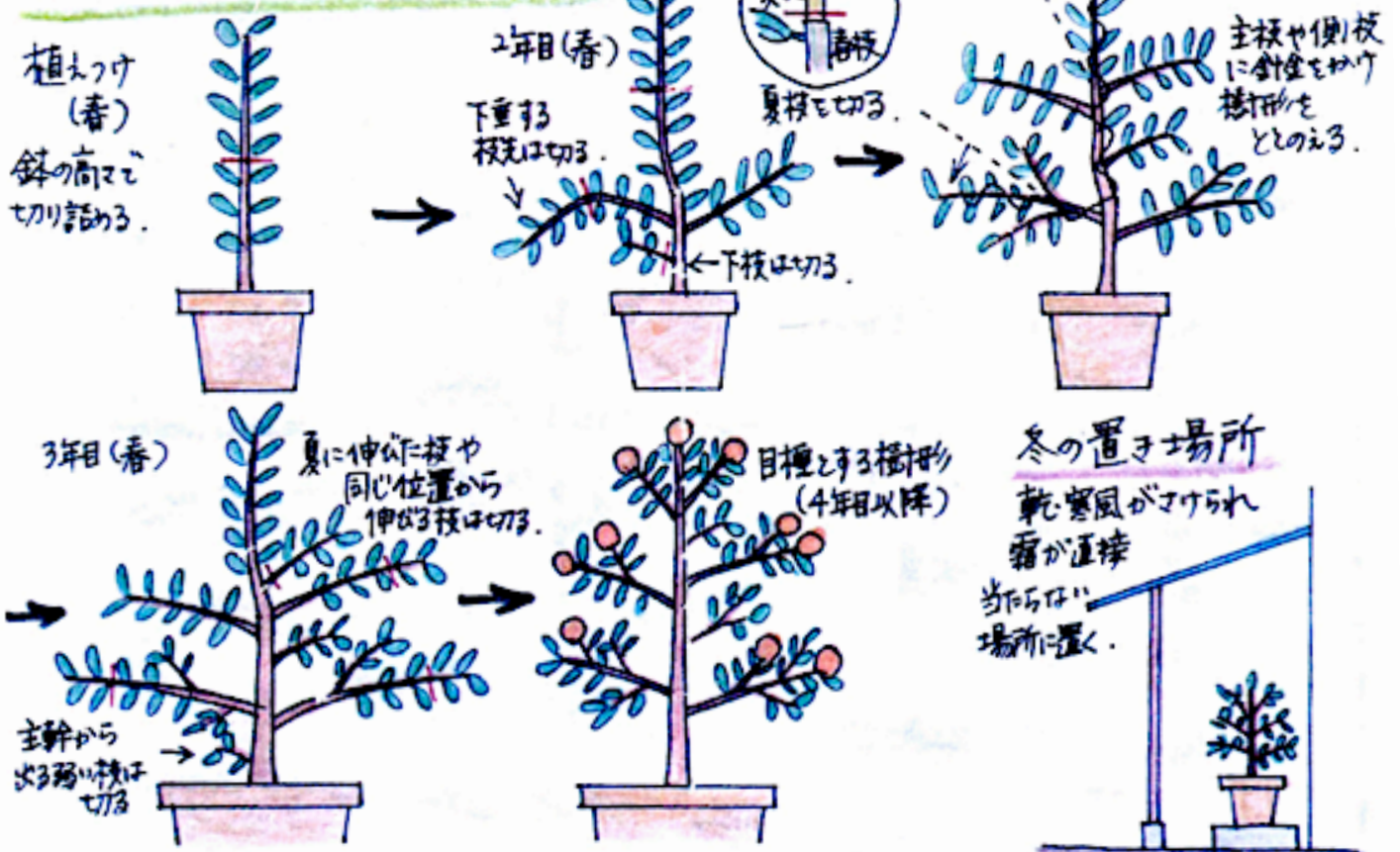
みかんの鉢植えの仕立て方

鉢植えの仕立て方について、まとめたイラストを添付いたしました。参考にいただければ幸いです。来年の3月から4月ごろになりましたら8~10号鉢に植え付けを行なっていただければより成長していくと思われれます。「コモンズの農園」の大地に移植するまでの2~3年間は鉢にて育てていただき、水やりは鉢が乾いたら、冬の寒い時期は風が当たらないような場所に置くのが良いかと思ひます。肥料は3月と10月に玉肥やしを鉢の周辺に埋め込んでください。次号にて生育状態などに合った育て方などの情報もお知らせできるかと思ひます。

冬のミラノより

紀南滞在後に日本での仕事をこなして、私は12月にイタリアのミラノに戻りました。こちらは、毎朝氷点下近い寒い日が続いています。ウクライナ戦争やコロナ禍の煽りを受け、多くの国々で不景気や物価高で経済的な問題が噴出して、先行き不安な状況に暗い影を落としています。このクリスマスの時期のイタリアは、そのようなネガティブな状況を振り払うように人々の顔に少し笑顔が戻ってきています。宗教行事としてのクリスマスが心を温かくしてくれています。日本の爽やかな冬晴れが続くお正月ももうすぐですね。良い年をお迎えください。来年もどうぞよろしくお願ひいたします。

鉢植えの仕立て方 模様木仕立て



鉢植えのポイント

模様木仕立てにし 摘果と適正に行き、突つきが少なくなるようにします。

植えつけ

3~4月に 8~10号鉢に植えつけます。

置き場所 半日以上日当たりのある場所に置きます。冬は乾・寒風がマケられ霜が直接当たらない場所に移動すれば東京付近でも屋外で越冬できます。

水やり 鉢土が乾いてきたら水やりします。

肥料 3月と10月に玉肥を鉢の周囲に埋め込みます。

整枝・剪定 樹高は鉢の高さの2.5~3倍を目安にします。庭植えの枝は、春・夏・秋の3回伸びますが、鉢植えでは幼木のうち夏枝が伸びるくらいで、実がつくようになると、春枝がほとんどで間引き剪定が主になります。

摘蕾 葉のひいつほみは除きます。

摘果 7月中旬 8月中旬に実の肥大状況を見て、8~10果を残して摘果します。

植えかえ

成木にはれば 1年おきに行います。

「みかんを巡って」 -みかんコレクティブに寄せて-

杉 眞里子

1. みかんと平和

みかんのイメージをしているとき、戦ったり、うらんだりするシーンがあるでしょうか。みかんは、こたつの団らんや温泉のほっこりした風景に似合います。みかんの木は冬でも青々とした葉が繁っています。そして、みかんそのものも、見るからに元気色をしていてコロンと可愛らしい。決してトゲトゲしていません。また、日本のみかんは刃物をつかわず、分け合える、稀な果物です。オレンジは手では向きにくいですし、バナナは1本しかないときは、分かち合うのがむずかしいです。りんごだって、かぶりつく以外には、怪力でないと割れません。でも、みかんは子供でも分け合えます。

2. みかんと人の関係 みかんの戦略か、ただ、おおらかなのか

今年12月に、伊豆半島の伊東で、原生種と言われるみかんを食べる機会がありました。八幡宮来宮神社という1300年の歴史がある神社のそばに自生しているみかんの木なのですが、「神社のみかんを勝手に食べていいのかな」と思いながらも、地元の方が取って食べ始めたので、一緒にいた10人位の人たちで、ひとり1個ずつ、いただいてしまいました。野生のためぎにでもなった気分。まさに「コモンズみかん」。驚いたのは、その甘さです。十分に熟していたこともあります。商品にしてもいいくらいでした。もちろん、小さいですし、大きい種もあります。でもこれは、糖分、水分、ビタミンを与えてくれる自然界の極上スイー



白浜の海をながめるみかんたち
写真：著者

ツです。緑の中でめだつ元気な黄色とこの甘さ、鳥や動物が食べて、種を遠くに運んで増えるに最適です。しかし、みかんを種から育てた場合、10年以上かかり、種をとったものと同じ味にはならないので、接ぎ木で増やすのが一般的です。みかんは、接ぎ木されることによって、「種（たね）」を持たなくても「種（しゅ）」を残していく、いわば小麦と同じ、人の手を借りて種を残す狡猾な戦略なのでしょうか。それとも、誰の手を借りなくても、原生種の甘くてピカピカした形状で、食べてくれる誰かに魅力を振りまき続ける、どこまでもおおらかな植物なのでしょうか。

3. みかんの受容性と多様性

紀南アートウィーク 2022 には、たくさんのみかんが登場しました。和歌山のみかん農家さんのお話で最も印象深かったのは、挿し木の話です。挿し木で増えるということがそもそも不思議です。同じ遺伝子をもった木がたくさんできるということは、クローンとして増えていくということになります。それだけでも、なんだか未来的に思えま



八幡宮来宮神社
写真：著者

す。さらに驚くべきことに、異なる柑橘種の挿し木を挿しても、同じ木の根っこから、異なる柑橘が育っていくというのです。しかも、ひとつの種に複数の柑橘がなることも可能といいます。この話は衝撃的でした。たとえば温州みかんの木に、挿し木をしていけば、八朔もぽんかんも甘夏も育つというのです。なんという受容性、なんという心の広さでしょう。やはり、みかんはおおらかな植物なのでしょう。



原生種のみかん
写真：著者

4. みかんコレクティブにおけるみかん

「みかんマンダラ展」で印象に残ったのは、<『みかんと人のサウンドトールス』@ SOUZOU>です。蔵の中にあるのは、枝なのか、根なのか、あるいは枝であり、根であるのかわかりません。神々しいような、少し恐ろしいような枝とも根と

もとれる風景。私には、蔵の屋根をつきやぶり、天に向かって伸びている幹と枝が見えた気がしました。それは、吸収した養分を、どんな種の柑橘にも分け与える、どこまでもおおらかなみかんの木の姿です。誰もがほっこりするような平和なみかん。その多様性と受容性、寛大さと心の豊かさ。それは今、世の中から最も求められていることかもなのかもしれません。

12月吉日



AWAYA、みかんと人のサウンドトールス、2022、
写真：著者

杉 眞里子
旅行会社、生命保険会社を経て、NTTドコモ 法人営業（公共担当）、日本IBM 事業開発部長、2019年よりフリーランス。ちょっとした気づきや新しい出会いで、人々の生活が、少しでも明るく元気になることを目指して、日々活動しています。<お仕事学 YouTube チャンネル> <https://www.youtube.com/channel/UC5V0AMTgfUuO4wVEmn3Z0kQ>

メッセージ 01

五十嵐純

苗木の旅の里親のみなさん、こんにちは。紀南アートウィークで、企画に関わらせてもらった五十嵐純です。僕は今、12月からの1年間、美術の研修でアメリカ西海岸のカリフォルニア州のサンフランシスコの近くの街に住みはじめました。カリフォルニア州は、ネーブルやバレンシアなど日本でも有名な柑橘の産地でも有名な場所ですが、なんと先日行ったスーパーでは写真のように「Kishu mandarine (紀州マンダリン)」が一番目立つところに山積みになってました！調べてみたら「種がなく、子どもが自分で食べても大丈夫なため、特に親御さんに愛されています。」とあり、もちろん買って食べてみましたが、甘くてホッとする味でした。今後もアメリカ柑橘情報をお届けしたいと思います！みなさま良い年末年始をお過ごしください！



サンフランシスコで売られている紀州みかん
写真：五十嵐純

五十嵐 純

インディペンデントキュレーター。みかんマンダラ展のキュレーションを担当。現在は文化庁在外研修員としてサンフランシスコ・ベイエリアのインスティテュートにて、アーティスト・イン・レジデンス事業やキュレーションの研究中。

ディレクターズノート 01

藪本 雄登

「みかん」には、たくさんの魅力があります。特に、「紀南のみかん」は、圧倒的に美味しいと思います。ただ、その「美味しさ」の先を見てみたいと思って、「みかんマンダラ」展を企画してきました。そして、その「紀南のみかん」には、皆様が思っている以上に、生活と紐ついた言葉化されていない「何か」があるように思います。紀南/熊野という地で、「みかん」を媒介にし、数々の思想家や芸術家の言葉をお借りしながら、「『原理を越えた』みかん」を求めようとした思考の痕跡を『みかんと人間の芸術人類学-「みかんマンダラ」展を終えて-』として執筆しました。その「何か」は、まだまだ掴めそうにないですが、これから皆さんとともに思索し続けたいと思います。来年も、深く、楽しく思考を深めていきましょう！！



みかんの苗木を配布するイベント
写真：下田学

藪本 雄登

紀南アートウィーク実行委員長。十数年に渡り、カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ等に居住し、業務の傍ら、各地のアーティスト、キュレーター、アートコレクティブ等への助成や展示会の支援を行っている。現在、アジア太平洋地域の神話、伝説、寓話や民俗等に関心を持ち、人類学とアートについて研究を行っている。

Happy Holidays

Satoshi Hirose



L'affresco della Villa di Livia, Palazzo Massimo alle Terme, II secolo a.C. © Museo Nazionale Romano

ローマの時代に描かれたフレスコ画。柑橘類は豊かさの象徴としてすでに古代より描かれてきた。